

世界遺産へのシンボルロード 「三条通り」の整備について

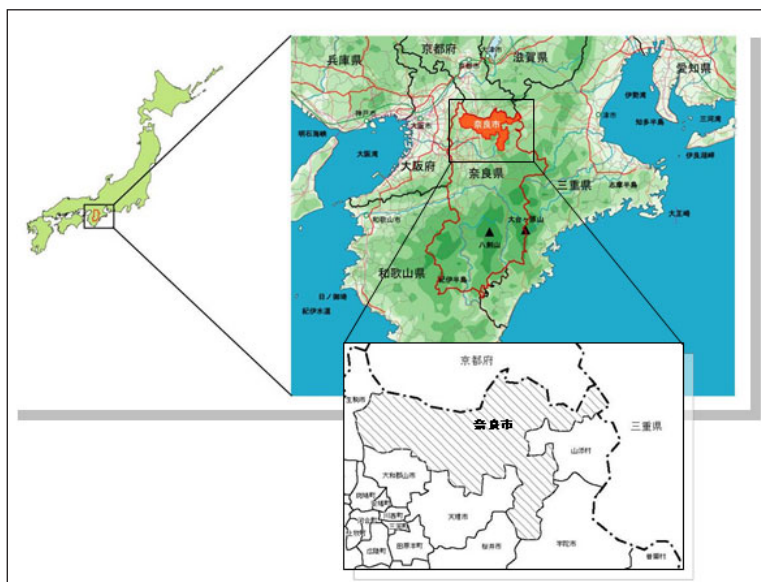
奈良市 建設部 街路課

1. はじめに

奈良市は、1300余年前の和銅3年（710年）に藤原京から平城京に都が移り、シルクロードの東の終着点として天平文化の華を咲かせ、政治・経済の中心地として栄えてきました。また奈良公園を中心に東大寺・春日大社・興福寺等といった世界遺産や歴史的文化遺産、鹿が共生する自然環境また春日山原始林・御蓋山・高円山等を中心とする東山の緑と稜線などの資源を有する面積276.84平方km・人口364,326人（平成26年4月1日現在）の“国際文化観光都市”です。

平成22年（2010年）には、わが国の本格的な首都『平城京』の誕生1300年を記念し、「はじまりの奈良、めぐる感動」をテーマに、平城宮跡内に復原された“第一次大極殿正殿”をメイン会場として「平城遷都1300年祭」が華やかに開催され、国内はもとより海外からもたくさんの観光客が訪れて大変な賑わいにわきました。

今後も、いろいろな行事を一過性にとなく、価値ある財産を大切に守り、育て、活用していくことにより魅力ある奈良を後世に伝えていかなければならないと考えます。



2. 奈良市の街路事業

奈良市内にある都市計画道路は、昭和8年（1933年）に計画決定されたのをはじめとして、70路線・総延長約170kmが存在しています。そのうち29路線が完成しているものの、一部完成あるいは事業中のものが30路線、いまだ11路線が未着手となっています。

昨今の公共事業を取り巻く社会情勢は年々厳しさを増してきておりますが、いかに公共事業予算を確保して、道路事情が決して良いとは言えない奈良市の街路事業を、効率的かつ効果的に整備していく事が強く望まれるところです。

さて、街路の役割は、自動車・自転車・歩行者等の交通を円滑に処理するだけでなく、祭りやイベントを開催して市民が楽しみそして人々が集い語り合うことができる都市空間であり、高齢化社会への対応、自然環境への配慮など人や自然にやさしい街の実現に向けた“みちづくり・まちづくり”が重要であると考えます。

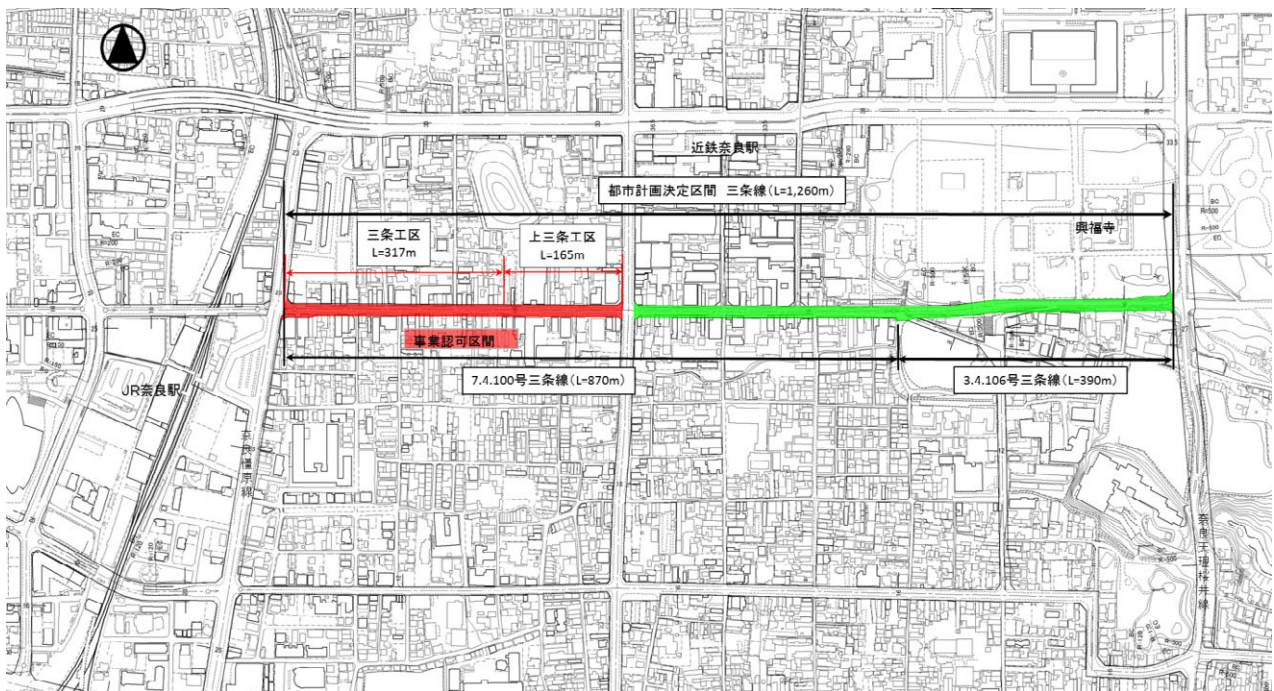
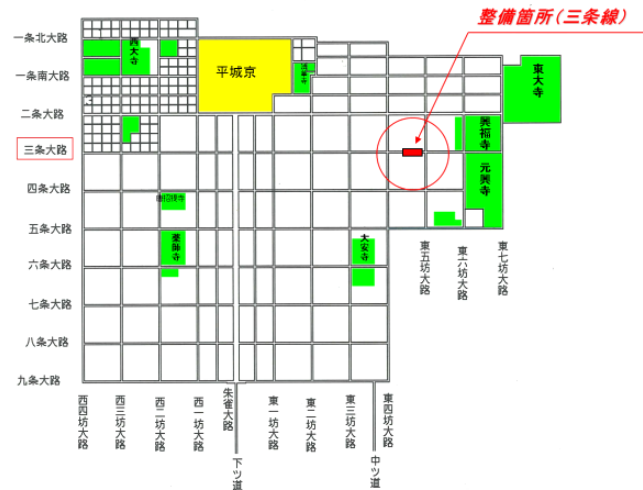
3. 三条通り（都市計画道路「三条線」）の整備

奈良市では、「奈良市都市計画マスタープラン」における「三条都市軸」形成の方針に基づき三条線を中心市街地におけるシンボルロードと位置付け、沿道店舗への車によるサービス機能と共存させつつ、歩行者の安全機能を重視し、また景観にも配慮した道路として整備しています。

三条通りは「平城京」の三条大路の位置にあり、今も条坊制の影を落とす歴史的背景を現代に継承する重要な【道】であり、周辺には数々の歴史的文化的資産が点在しています。

(1) 三条通りの変遷

都市計画道路「三条線」は“三条通り”の愛称で親しまれ、昭和41年に高畑町の都市計画道路“奈良天理桜井線”から三条町の都市計画道路“奈良橿原線”までの区間1,260mが都市計画決定されています。そのうち、大和都市計画（奈良国際文化観光都市建設計画）道路事業7・4・100号（1車線）三条線は樽井町から三条町までの延長870m、また道路事業3・4・106号（2車線）三条線は高畑町から樽井町までの延長390mとなっています。



この道路は、JR奈良駅周辺地区と近鉄奈良駅周辺地区及び猿沢池・興福寺周辺地区を結び、世界遺産群やならまち界隈への導入路として奈良市中心市街地の賑わいの中心軸を形成しています。

三条線は、中心市街地での歩行者や自転車の交通の主軸となっていることから、昭和61年から62年にかけて「シルクロード博」の開催にあわせて現道幅員のまま“コミュニティ道路”として整備をおこない、車線数を1車線に絞って歩行者空間を確保しました。

その後、三条通りは歩行者の増加や自動車利用による違法駐車問題が生じ、歩行者にとっても危険な状況にあるため、ジグザグした車道形態の改善について地元自治会や商店街から要望されるようになりました。

(2) 三条線の街路整備

三条線の整備前の状況は、歩道幅が狭く無秩序な駐停車の車や自転車の間を、多くの歩行者が車道へはみだし、車と混在しながら通行している危険な状況であり、歩行者中心のシンボル軸の機能が十分に発揮できず、また車による沿道サービス機能にも支障が出てきました。これらを改善すべく地元商店街では「むつみ会」という組織により、平成6年に三条通りの整備計画を検討するためのプロジェクトチームを編成し、「三条通り街づくり計画」案が作成され、平成8年には地元自治会と商店会との連名により奈良市に「三条通り街づくり計画」案の要望書が提出されました。

そして平成9年に三条線（上三条工区）の事業認可を得て事業着手し、同時に三条通りをより奈良らしいシンボル性のある道路に整備するとともに、人々が遊び楽しめる沿道を含めた商業市街地の形成を図るために「三条通地区地区計画」を定め、区域内の建築物の用途の制限、壁面の位置の制限、建築物等の形態又は意匠について制限を行いました。

また三条通りの整備方針については、同年8月に「三条通りまちづくり協議会」が設立され、奈良市と協働で事業を進めていくことになりました。

その後平成19年には、三条線（三条工区）も事業認可を得て事業を進め、平成21年度から工事に着手し、現在に至っています。奈良市は、三条通りまちづくり協議会から提案された整備案を基に作り上げたまちづくりであることから、「我がまち意識」として、郷土への誇りや愛着を育むものとなることを期待しています。

《整備イメージ》



整備前



整備後（イメージ）

(3) 整備構想 ～三条通り整備の基本方針とコンセプト～

【1. 景観形成コンセプト】

「古都奈良新風景軸」

奈良のまちに脈々と流れる風景イメージや、周辺の景観資源、歴史観光資源を大切にしながら、これからのまちの未来を担う、新しい風景軸として位置づけ現代に再現していきます。

○古の歴史風土・文化観光軸

- ・世界遺産や歴史資源への眺望を活かした（大切にした）街路景観づくり
- ・JR 駅や近鉄駅からのアクセス路の演出
- ・分かりやすいサインや歴史案内板

○中心市街地の賑わい形成・活性化軸

- ・「個別店舗」としてのアピールから、町ぐるみの「通り店舗」としてのアピールへの発想転換

- ・ 広告物や建築ファサードデザインのルールづくりによる魅力的な通りづくりや、共通要素の展開による通りの個性づくり
- ・ 店先空間をもてなし空間として活用

○町衆の生活・コミュニティ形成軸

- ・ 『連歌』のように隣り隣りへと繋げていく、沿道住民が自らつくる街並ルールづくり
- ・ イベント等に対応した仮設装置群
- ・ 沿道の公共施設や公園と一体となった街路空間整備

【2. 街路景観デザインコンセプト】

「なら・時の再生」

古（いにしえ）に刻まれた「時」を現代に伝承し、そして昇華し、新しい生活・文化を発信する道づくり

○地域で自治する人の関わりを大切にする道づくり

- ・ 路上荷捌き停車施設の運用
- ・ 地上機器修景を兼ねた、来訪者への道案内
- ・ 自治主体による駐輪施設の運用管理

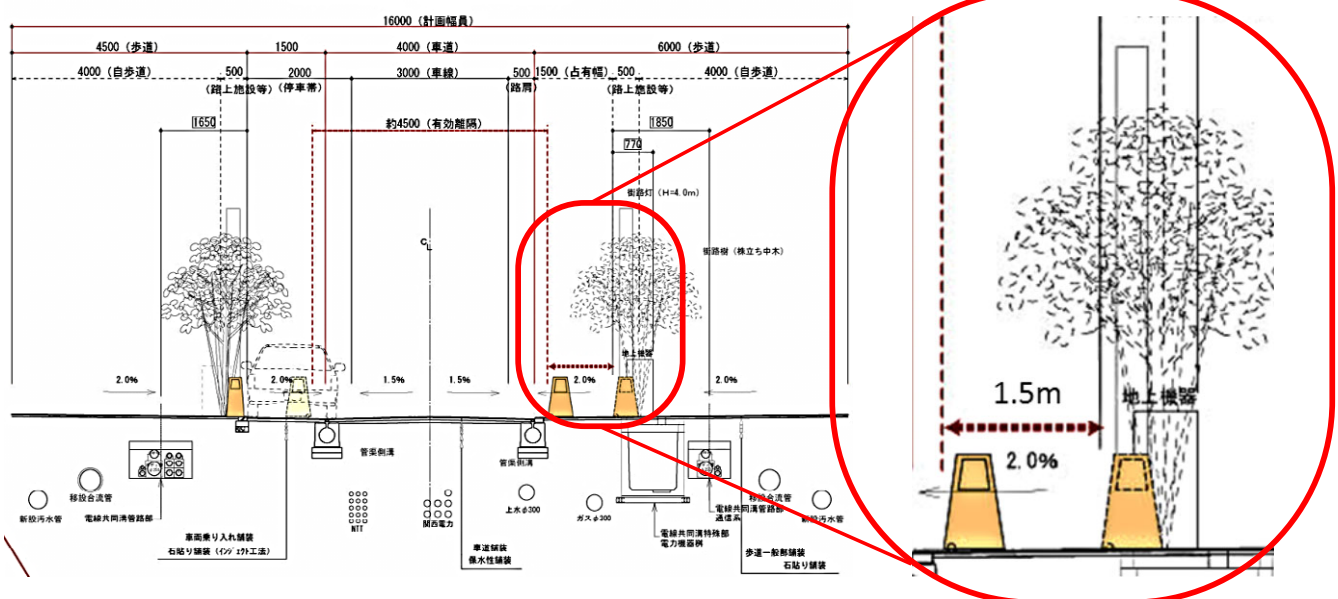
○地域文化を継承し育てるハレとケの道づくり

- ・ より豊かな祭事を演出する可変幅員装置（可動式ボラード [*1]）による、おん祭など伝統行事（行列行進）への対応
- ・ 街路灯などへのバナー取付けによる祭事等情報伝達と賑わい創出
（日常：通り名標示・記念事業のPR。祭事：幟（春日若宮おん祭、采女祭、バサラ祭など）

*1：可動式ボラード（車止め）

歩車道境界部のニュートラルゾーンに、平常時とイベント時（春日若宮おん祭り、采女祭、バサラ祭等）などの道路の使い方に応じて1.5m 移動することが大きな特徴です。

奈良三条通 計画標準断面図



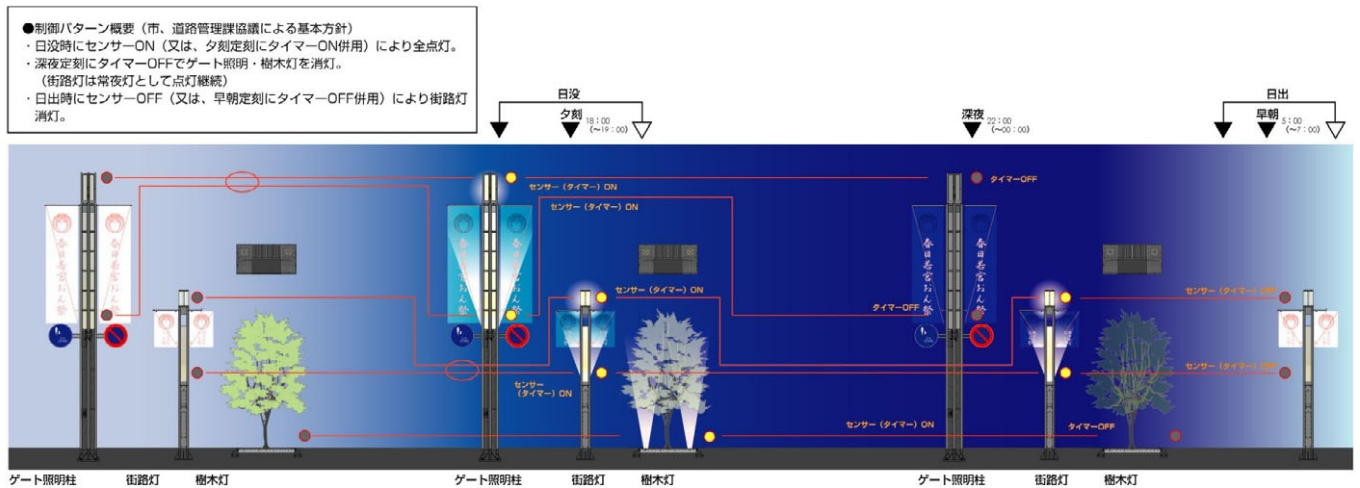
○奈良の伝統的な「かたち」や「いろ」、「あかり」などの環境イメージを現代に再現する道づくり

- ・ 伝統デザイン [*2] を継承するストリートファニチュアデザイン
- ・ 伝統産業に見られる「匠の精神」による機能美を追求した施設デザイン
- ・ シルクロードや奈良文化からのメッセージ [*3] を次世代に継承するデザイン

*2：伝統デザイン（街路灯・ゲート照明）

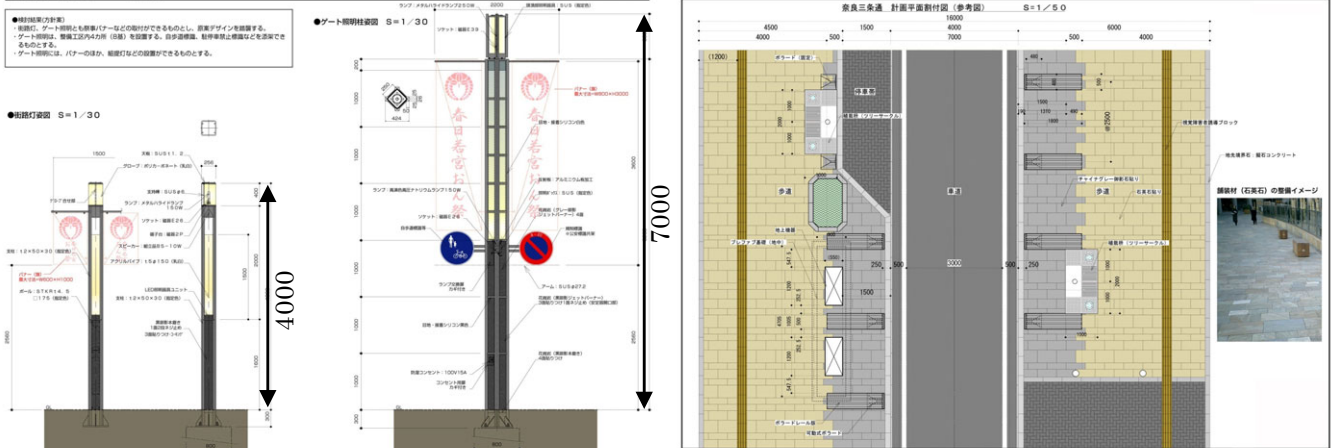
奈良の大きなイベントに定着しつつある「なら燈火会」等の灯りや「なら格子」に観られる透過性を感じさせる形態をイメージしたものと、色彩も墨や燻し銀など伝統色を基調としています。

照明施設点消灯プログラムについて



↑ *2 街路灯・ゲート照明

照明施設（街路灯・ゲート照明）



↓ *3 歩道・車道の舗装

*3：シルクロードや奈良文化からのメッセージ（歩道・車道の舗装）

歩道部は、シルクロードとのつながりをイメージさせる中国産の天然石を採用し、素材を活かした春日原始林の山並みの色合いに調和した色彩とし、路面パターンはシルクあるいは奈良の伝統工芸の「ならざらし」の糸目を表現しています。

車道部は、ヒートアイランド現象を抑制するため保水性舗装としています。

○世界遺産「春日原始林」の自然景観へのビスタを大切にしたい道づくり

- ・春日原始林の山並みの色合いに調和し、荘厳なる大地との連続性を感じさせる路面デザイン
- ・春日原始林へと繋がる緑生態のビスタ [*4] を形成する並木づくり

*4：緑生態系のビスタ（街路樹）

四季を通じて緑の景観を維持し、また春日山への眺望を阻害しない株立ちを活用するため、常緑樹（シラカシ）を植えます。また植樹桝には照明を内蔵し、下から照らしてライトアップをします。

本整備構想は、道路・ストリートファニチュア等の道路施設、沿道建築物や屋外広告物等、街の景観を構成する要素を総合的に捉えると共に、行政と沿道商業者の協働のもと、古都奈良の街路としての美しさと来街者へのホスピタリティを兼ね備えた道路整備を進めています。

街路樹について

●検討結果(方針案)

- ・基本樹種をシラカシとし整備。
- ・沿道地権者等の強い要望がある場合は、今後の整備過程での施工協議等において調整する。
- ・なお、代替候補樹種を検討する場合は、これまでの協議会検討における樹種選定の主旨(右記)に準拠することを基本とする。

※なお、代替樹種については、市場性などの都合により、要望に沿えない場合がある。

●街路樹選定に関する経緯

・これまでの協議会での意見調整において、街路樹については、**落ち葉対策やムクドリ対策などの理由により、株立ち形状の常緑樹**が選定条件となり、条件をクリアする以下のような候補があげられ、これらの中から、最も市場性があり街路樹としての適性が高い「**シラカシ**」を**基本樹種**とすることが確認されている。

・また、配置については概ね12m前後の間隔(10~15m)の配置とされている。

<街路樹の考え方(樹種選定の主旨)>

- ・四季を通じて緑の景観を維持できる。(いつも緑がある)
- ・落ち葉が大量に落ちない。
- ・大きくなりすぎない。(剪定により枝を落とせる。剪定に強い。)
- ・ムクドリなど鳥類を寄せ付けにくい。(細く繊細な枝張りのもの)

以上の4つの視点から、株立ちの常緑樹からの選定が条件となった。

基本樹種
シラカシ(株立ち)



ソヨゴ(株立ち)



カクレミノ(株立ち)



アセビ(株立ち)



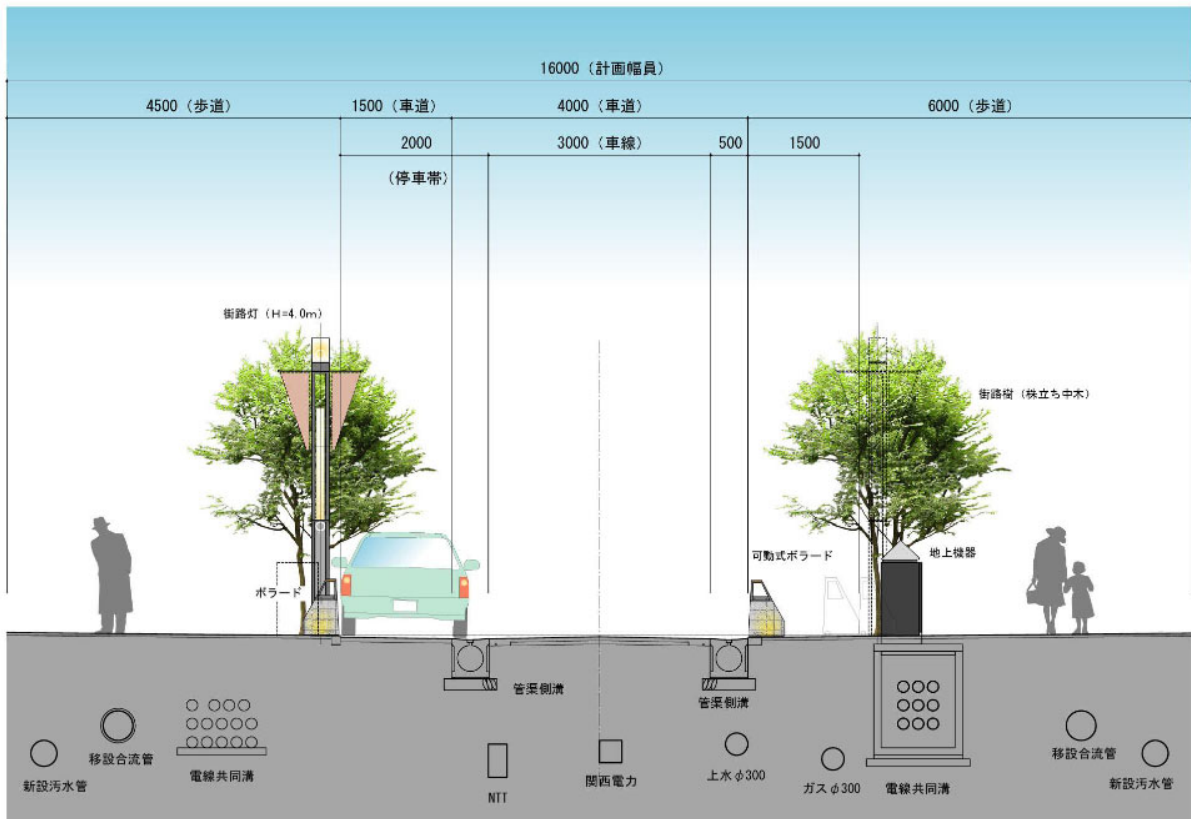
シマトネリコ(株立ち)



本株立ち 一度成長した木を根本から切り、萌芽させたもの。



《計画標準断面図》



4. おわりに

JR 奈良駅周辺の連続立体事業も完成し、整備された奈良市の玄関口である JR 奈良駅を降りると、目の前に三条通りが広がり、世界遺産である興福寺・春日大社等や古い町並みである“ならまち界隈”また遠く東側には春日山原始林へと導きます。

“平城遷都 1300 年祭”は活況のうちに終わりましたが、これから奈良市行政としては、多くの世界遺産をかかえ、また季節ごとに様々な観光行事が行われ魅力ある賑わいと活気に満ちた“国際文化観光都市奈良”を、より一層アピールしていかなければなりません。

現在、JR 奈良駅周辺や三条線の整備を行っており、早期完成に向けて進めているところですが、中心市街地の活性化目標である【訪れたくなるまち・歩きたくなるまち・活力のあるまち】を掲げて、「おもてなし」の気持ちを持って“一度奈良へ行ってみたい”“もう一度奈良へ行きたい”と言ってもらえるようなまちづくりの一翼を担う街路整備に努めていきたいと思えます。

～三条通りの《昔》と【今】～

《整備前》



【整備が進む三条通り】

